

薬剤師生涯学習でみえた『進化する薬剤師育成構想』第2報

○徳田 和也¹, 村上 理¹, 鈴木 素邦¹, 藤掛 景子¹, 伊賀 舞¹, 坂口 恭英¹, 大内 香織¹, 出口 弘直^{1,3}, 高田 直樹¹, 山本 和良¹, 木暮 喜久子¹(¹学校法人医学アカデミー薬学ゼミナール生涯学習センター, ²薬学ゼミナール生涯学習検討グループ, ³医療法人社団仁心会越谷ハートフルクリニック)

【背景】医療技術の高度化、患者・家族のニーズの多様化、医師不足、在宅医療の推進という医療環境の変化から「チーム医療」の重要性をよく耳にする。チーム医療において薬の専門家として参画できる薬剤師が求められており、取組みの一例として「薬学部6年制教育」「認定薬剤師制度」「各種専門薬剤師制度」などが挙げられる。薬剤師が病院・保険調剤薬局・ドラッグストア・災害地などさまざまな場において多職種連携を図り、職能を真に発揮するためにも現場教育だけでなく、自らの意志で生涯にわたる研鑽を励むことはすでに重要視されている。その自己研鑽への啓蒙活動・研鑽の場を提供することもチーム医療推進への重要な鍵となることが示唆されている。【ビジョン】当センターでは、薬剤師の多職種連携(スキルミックス)をビジョンに生涯学習講座を企画している。薬剤師が多職種への情報提供、あるいは患者さんへの服薬指導・健康支援をするためにも、相手にあった適切な会話・コミュニケーションができ、「バイタルサインを含めた情報収集」・「解釈」・「薬剤師としての決断」ができる人材育成を目指す。また、早期からの生涯学習に対する意識付けをするためにも学生向けの雑誌などで啓蒙活動を継続することにより、医療の質を高める基盤作りを目指している。【報告内容】今回は平成23年3月に日本薬学会にて投稿した企画立案(企画テーマ:症候診断・未病・在宅医療・緩和ケア)に対して、平成23年度(平成23年4月~)に当センターが活動してきた概要とアンケート結果、課題、今後の展望について報告する。【結果と考察】全国4ヶ所にて講座を展開(全35回)し、受講者からは「明日から使いたい」「医師の考えることが理解できた」「なぜその処方をするのか分かった」などの臨床的思考を醸成するような意見をいただいている。また若い薬剤師の参加が多いことも特徴である。特筆する課題としては、フォローも含め「評価」のしくみが挙げられ、現在解決に向けたシステムを検討している。